

みんなと同じが、ほんどにいい? 頭の中をのぞいてみよう。思うこと感じること... きっと、中身は人それぞれ。

# 「ちがう」からおもしろい

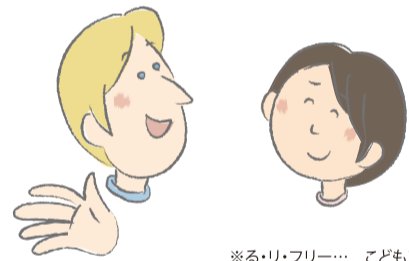
「あの子、変わってるね」っていうとき。それは、ほめ言葉? それとも悪口?

…おおかたの場合「私たちは同じだけど、あの子はちがう」というような、どこか排他的なニュアンスで使われるような気がします。

2月、る・リ・フリーで発表する予定で、子どもたちがダンスの練習をしていました。楽しそうにはしているけれど、はみ出さないように、目立たないように、まわりの様子をうかがいながらの練習風景。みんなとちがうことをするのは、恥ずかしいようです。

いくつになっても、そういうことってありませんか? たとえば。みんなが納得している話題、なんかちがうなと思って「空気を読んで」まわりにあわせた経験、あなたにもあるはず。ちがう意見を言って、流れを止めてしまおうと、イヤな空気になってしまうことを知っているから。

欧米人と比べても、日本人は人前で自分の意見を言うのがヘタだと言われてきました。カドを立てずに相手の意見を受け入れることを良しとしてきた日本の文化は、意外と私たちの身体の奥深くにしみこんでいます。自分の意見とどこかちがうと感じても、その違和感には目をつぶり、同調してしまう…。そこに、疑問をもつことすら、ないのかもしれない。



※る・リ・フリー… こどもステーション山口で年1回開催している、年齢の違う地域のなかまをつくる舞台発表。台本作りなど準備から発表まで子どもたちが中心になって行っています。

たとえば劇をみるとき。“同じ空間や時間や体験を共有すること”と、そこで“感じる”は、「共感」という言葉でひとまとめにされがちです。だけど本当は、一人ひとりちがう。同じものを共有して、それぞれの心にそれぞれの想いが生まれるところがおもしろい。私はこう感じたけど、あの人はこう思ったんだ。なるほど、そんな見方もあったんだ! だって、正解なんてないのです。それぞれのなかでふと気づいて、心がざわめくことにこそ、新しい発見があるのです。

双子コーデなるものが出現し、上から下までまったく同じスタイルで街を歩く10代がいます。一緒がうれしい、かわいい、のかな。それも、もちろんひとつの表現です。ただ、なぜそういう感覚が生まれてきたのか、その背景が気になります。



「世間と同じにできること」を求めるおとなたちがいます。学校でも、「明るく元気に…」など「同じ」が求められるがちな気がします。人がつくったグループや社会という「枠」があるから、そこになんとかはめなきゃならない、はまらなければいけない、と私たちは思い込んでいるのかもしれない。そんな枠、とっぱらっちゃったら? あーなんだか自由かも!



無理に合わせず、枠にはめず、「あの子、私とはちがってるから興味深い」とそれぞれが認め合って、みんなのびのび生きていける世の中を想像してみてください。年齢、性別、生まれ育った場所、そのひとつひとつであたりまえのこと…。どうせなら、自分とは違うところをもつ人たちとたくさん出会って、自分にはないものを知ってほしい。だって、そっちのほうが、断然おもしろい!と思うのです。(クラタ)

感動で一つになるって、心底嫌な言葉だなあ。そこから外れた人のことは勘定に入らななさぞうだし、そもそも一つにならなくてもそれぞれが生きていける世界のほうが、いいと思うんだけどなあ。「大友良英さんのツイッター(2/18)」より



## 1日かぎりの特別な遊び場 / 「いちにちプレーパーク」2回開催!

11月16日(土)参加者105人、2月22日(土)参加者98人 糸米川砂防園

9、10月に天野秀昭さんのプレーリーダー養成講座を受けたメンバーがスタッフになって、1日限りのプレーパークを開催しました。

木戸公園から車で川沿いを登ること3分。糸米川砂防園は小さな川とゆったりとした斜面があって、遊具がなくても子どもたちが楽しく走り回って遊べる場所ですが、この日はちょっとした仕掛けもあって特別な遊び場に!

木から木に渡された2本のロープは、一名モンキーブリッジと呼ばれるもの(表紙写真)。バランスをとりながら伝って渡るのは意外と難しく、けれどその揺れが楽しい!斜面ではターザンプランコや、段ボール積みや草すべりも。直火が禁止のこの公園ではパーペーキューコンロで火焚きをしました。焼き芋も絶品でしたが、燃え上がる炎は見るだけでも楽しくて、子どもたちは木切れや枯れ葉を次々と集めてきては投入していました。2月には七輪の上でべっこう給づくりに挑戦。

また、スタッフのお父さんには子どもたちに竹細工の手ほどきをしてもらいました。竹の弓矢、竹馬などが熟練の手伝いもあってうまく出来上がり、すぐに子どもたちの遊び道具になりました。2月のプレーパークには大学生3人もスタッフとして参加。ユニークな竹の小屋づくりに子どもと一緒にチャレンジしていました。



初めての刃物。興味津々。

参加された大人には「あぶない・よごれる・はやく・なかよく・じゅんぱんに」のことばはのみこんで、いっしょに遊んでね、と伝えました。両日も予想以上の参加者で、終了時には解散を惜しみつつ「次はいつ?」の声がたくさん聞こえてきました。



小学生も大学生もいっしょに。

## る・リ・フリー2020 子どもによる創作舞台!

コロナ感染拡大防止のため、中止。練習の成果を発揮できなかったことが残念でした。

子ども作戦会議 12月25日(水)事務局各ブロックから子どもたちが集まって、る・リ・フリー2020のキャッチフレーズを考えたり、担当の仕事を決めたり、出演順も決めました。中学生グループが大活躍。



子どもたちの意見で企画がすすむ。

看板もできていたんだけど…。



中学生グループ

## スポーツ大会 ~みんなで楽しく遊びよう~

11月30日(土) サンプレッシュ山口



どの競技も、みんな全力。いい汗をかきました。

5年生以上を対象に、バスケ、バドミントン、卓球にリレーと、とにかくスポーツ三昧の一日でした。おとなたちもがんばった!中学生グループが、事前にオリジナルのルールなどを考えてくれたおかげで、もりあがりました!参加者 子ども21名、おとな5名。

## 文化芸術が守られる国でありますように

コロナウイルス感染拡大により、わたしたちの日常は突然ちがうものになってしまいました。たくさん仲間と集まることも、顔をつきあわせて笑いあうことも、身体を寄せ合っってひとつの舞台をみることも、どれも感染の危険度大。こどもステーション山口でも、2月末に予定されていた2つの舞台鑑賞会と、3月のキャラクターづくりワークショップとアウトメディア講座、4月末のこどもまつりが、やむなく中止となりました。

だれにも文句は言えないし、それぞれの命に関わることだけに、適当なこととも言えません。ただ、生きるということは、命を守っていくことだけを考えていても楽しくない!ということに、実感として気づいたのは事実。イベントが中止になり、外で遊ぶこともなんとなく気がひけて、家のなかでゲームや動画、テレビをみるばかりの毎日は、とてもむなしかったです。ともだちに会いたい、だれかとおしゃべりしたい、おいしいものを一緒に食べたい、走りまわって遊びたい…。家から出られなかった休校中の子どもたちは、おとな以上にそんなことを考えているのではないのでしょうか。



非常事態に、最も軽視されるのは文化芸術であると いわれます。とくに日本は、その傾向が強くなるようです。今回も、公演中止せざるを得なくなった劇団などへの公的な補償がないことが問題になっていました。文化芸術にふれることで、わたしたちは考えたり、感動したり、泣いたり、笑ったりしてきました。命を守ることに直結してなくても、それが心を守ってくれていることは、説明するまでもない、思っているのですが。文化芸術が守られる国でありますように。いま、切にのぞみます。(カキタ)

## 2019年11月 ~ 2020年4月 こんな舞台をみてきたよ

こどもステーション山口の舞台鑑賞会には、人形劇や舞台劇などいろんなジャンルがあります。



**ピアノカの魔術師**  
サウンドポケット (低・高学年対象)  
11月29日(金)山口県教育会館ホール

ピアノカの魔法にかかってしまいました。ミツチャー率いる3人のステージは、心が躍る、魅惑のひとつ。

- すごかった、カッコいい!(会員5才男子)
- “音楽で1つに”本当にそう思います。(会員60代女性)



**0さいからのピアノカLIVE**  
サウンドポケット (乳幼児対象)  
11月30日(土)C・S赤れんが

小さい人たちが、ノリノリに!音楽ってたのしいね、を見て感じて、幸せな気持ちになりました。

- はじめて子どもとコンサートにきました。時間もちょうどよくて、たのしかったです。(一般20代女性)
- また、音楽が大好きになりました(一般40代女性)

## 舞台鑑賞会当日までのお楽しみ。ワークショップとイベント



**“魔術師に弟子入りしよう!”**  
ピアノカワークショップ

10月20日(日)山口市男女共同参画センター ミッチューリーがやってきて、ピアノカの技を教えてくださいました。参加者は、公演当日、舞台にあがって演奏も!参加者28名。



**弥次さん喜多さんトンちんカン珍道中**  
オリジナルすごろくを作ろう!  
ふくわらいで遊ぼう!!

11月11日(土)山口市男女共同参画センター 巨大すごろくの、巨大なサイコロころがして、新年初笑い。ふくわらいははじめて、という子どもたちも多数。参加者27名。

## コロナ感染拡大防止のため、延期になりました。

- 弥次さん喜多さん トンちんカン珍道中 人形劇団 京芸
- 火よう日のごちそうはひきがえる 人形劇団 ひとみ座
- ちゃんぶるー ~私が幽霊!?修学旅行~ 児演協

## メディアと子ども

### すべてをスマホにのまれてしまわないために

大人も惑わされるスマホが引き付ける力。自分たちが子どもの頃にはなかったスマホやインターネットと子どもの関係は、分からない事が多い分モヤモヤします。一月末開かれた「第10回子どもとメディア全国フォーラム」『スマホ社会と子どもの未来～技術革新は人類を幸せにするのか?～』に参加してきました。

東京会場 500名、福岡 WEB 中継会場 100名の定員は早々に受付メ切になったそうです。学校で電子機器を使っっての教育が進む一方で、子どもがメディアに接する事への関心の高さがうかがえます。講演では、脳科学、依存症、生命誌などの観点から、子どもとメディアについてのお話を聞きました。

脳科学の調査からは、インターネット習慣が多ければ、成長とともに増えるはずの大脳皮質の体積があまり増加していない。つまり、脳発達を阻害しているとの結果がでたそうです。脳が成長していないのに、学年が上がり授業をうけても理解が難しいということになります。睡眠時間や学習時間が長くても、スマホ使用時間が延び

ることに学力の低下が見られることは、調査結果のグラフからも明らかでした。また、e-sports がクラブ活動になるなど、メディアが子どもたちの生活の中に溶け込みつつあることで、ゲーム障害と依存が疑われる中高生が増えているそうです。なかでも、オンラインの依存は強く、男子では、ゲーム、動画。女子はSNS、動画にはまりやすいようです。これらのインターネット依存により、自尊心が低い、不安・抑うつ傾向が高い、共感性・情動制御能力が低いなど、脳の機能の低下が見られるということでした。

しかし、今の情報社会で、全くスマホを使わないのは、難しい。そこで、挙げられていたことは、

- スマホは(のまれてしまうような使い方を避け)道具として使うこと。
- 1時間未満の使用や居間に置くなどのルールづくり。
- 睡眠・食生活・親子のコミュニケーションなど生活面の見直し。
- 読書・外遊びをする。

大人がつくりだしたのものによって、まだ判断力が未熟な子どもたちがむしばまれていることは明らかです。では、子どもたちがメディアに全てをのまれてしまわない環境を大人がどうつくるのか、どんな価値観をみせていくのが、問われていると感じました。